

戦争の記憶 後世へ

旧陸軍気球連隊の格納庫

屋根一部を展示

千葉公園



かつての姿を再現する形で展示されているダイヤモンドトラス15日、千葉市中央区

老朽化に伴い解体された旧日本陸軍の気球連隊第2格納庫で、屋根の骨組みの一部が千葉公園（千葉市中央区）に戦跡モニュメントとして設置された。屋根は細い鉄骨で三角形をつくり、アーチ型に組み合わせていく「ダイヤモンドトラス」工法を採用。軍都だった千葉市の歴史を象徴するとともに、戦前の建築の貴重な遺産となる。市は展示に際し、設置角度や色合いなどで往事の姿を再現した。

多くの命が奪われた45年の千葉空襲でも焼け残り、戦後は複数の企業を経て市川市の倉庫会社が所有。老朽化が進んだため、2020年に解体された。その



解体中の第2格納庫（千葉市提供）

の展示場所に、市民の憩いの場所であるとともに、旧日本陸軍鉄道第1連隊の演習跡地でも架橋演習の橋脚跡など戦跡が点在する千葉公園を選択。展示では、コンクリート基礎から斜めに立ち上がり、外側は赤いさび止め、内側は銀色のペンキで塗られていたかつての様子を再現した。

市市民総務課は「千葉市は軍都だったために空襲の被害に遭った。モニュメントを通して平和の大切さを感じ取ってほしい」と話した。ダイヤモンドトラスは市立郷土博物館にも寄贈されており、歴史的資料として保管されている。

格納庫は34年に完成。間口38㍍、奥行き44㍍、高さ18・5㍍、かまぼこ屋根の巨大な建物だった。

再開発会社がダイヤモンドトラスの骨組みの一部（二辺約2㍍）を市に寄贈した。

市はダイヤモンドトラス